

平成 22 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」 共同利用報告書

CEFR 導入以降のハンガリーの外国語教育

東京未来大学 専任講師

カレイラ松崎順子

ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) は、1970 年代から始まった欧州評議会の言語教育プロジェクトを背景に、1991 年ルシュリコンのシンポジウムにおいてヨーロッパ共通の言語能力を規定する設定案が出され、その後およそ 10 年間の検討を経てでき上がったものである。日本ではヨーロッパの外国語教育および CEFR に関する研究はフランス・ドイツなどの西欧諸国の研究が多く、今まで東欧諸国における研究はあまり行われていない。CEFR が西欧諸国のみならず、東欧諸国においてどのように取り入れられているのかを調べることは、日本における CEFR を応用した教育の可能性および問題点を探る上で有益であると思われる。ゆえに、平成 22 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」共同利用に申請し、CEFR 導入以降ハンガリーの外国語教育の現場がどのように変化したのかを明らかにするため、主にスラブ研究センターが所蔵するハンガリーの教育関係に関する資料を使用して、ハンガリーの外国語教育について調べた。その結果以下のようなことが明らかになった。

ハンガリーでは 2003 年にナショナルコアカリキュラムの改定により、CEFR の導入が正式に盛り込まれた。2003 年以来ハンガリーの文部省は外国語教育を発展させることに力を注いでおり、外国語指導の方法論を活性化させることや教師の経験を交換し合うことを目的とする数多くのプロジェクトを行ってきた。また、「複数言語を使用する欧州市民」となるためには幼児期から外国語教育を行わなければならないと考え、ハンガリーでは早期外国語教育が盛んである。小学校 4 年生から外国語を学ぶことが義務化されており、必ずしも英語とは限らず、各々の学校で指導体制が最も整っている言語を学んでいく。また、一部の初中等教育学校でバイリンガル教育が行われている。2008 年には、全国で中等教育学校 136 校と初等教育学校約 90 校が、英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、イタリア語、スペイン語、および中国語などのバイリンガル教育を行っている。ところで、社会には早期外国語教育による成果を肯定的に受け止める声も多いが、いくつかの課題も残されている。最も大きな課題は十分に訓練を受けた専門家が不足していることである。

秋に 2 回のセンター訪問で、図書館や電子ジャーナルなどの資料を中心に調べた。合計で 4 日間という短い滞在期間であったため、十分に調査もできなかったが、それでも CEFR について多くの資料を得ることができた。末筆ながら、今回の訪問でお世話になったセンターのスタッフおよび図書室スタッフの皆様に心よりお礼を申し上げます。